乙貞（おとさだ）

第２０７号　通巻３６巻第４号
平成２８（２０１６）年１０月１日発行

守山市立埋蔵文化財センター
TEL/FAX　０７７－５８５－４３９７

〒５２４－０２１２
守山市服部町２２５０番地

今年の夏は、記録的な猛暑に見舞われ、９月に入ってもなお残暑厳しい季節が続いておりましたが、ようやくさわやかな秋晴れが続き、木々の葉も薄らと色づいてまいりました。当センターではまもなく開催します、秋季特別展の準備に追われています。

またお誘いあわせの上、ご来場頂ければ幸いでございます。

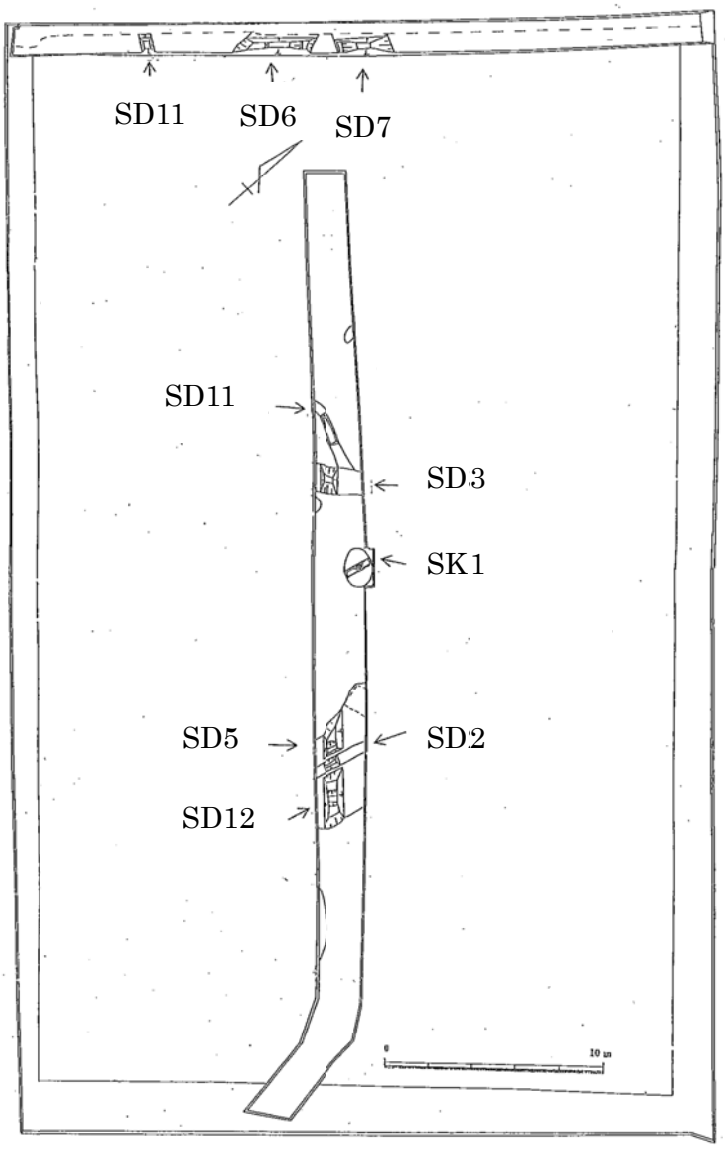
発掘調査だより

下之郷遺跡　第１０６次調査

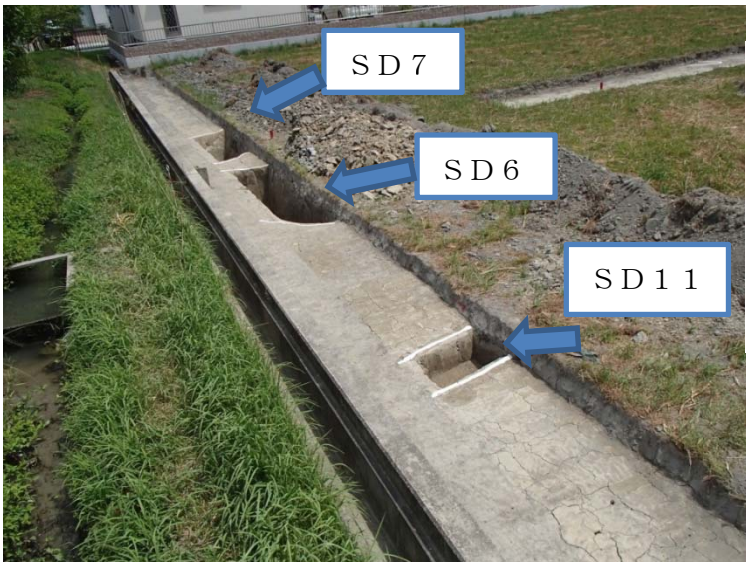
下之郷一丁目において、８月17 日から宅地造成工事に伴って、擁壁および上下水道の設置部分について発掘調査を行いました。この場所は平成 28 年３月に確認調査を実施しています（溝の番号は確認調査、第１０２次に合わせました）

なお、今回の調査では、確認調査で検出された溝の跡のうち、調査地北西側の擁壁部分で３条を確認し、このうちSD6、７からは弥生時代中期の土器が出土しました。

また、調査地中央の上下水道管設置部分では、５条の溝、土坑について発掘を行いました。



下之郷遺跡（第 106 次調査）
発掘調査地　遺構図 ▶



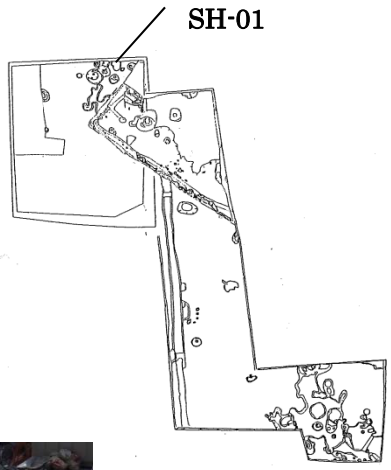
擁壁部分でも、ＳＤ６、７、１１に続き、さらに調査区外に延伸していくことを確認しました。（北川）

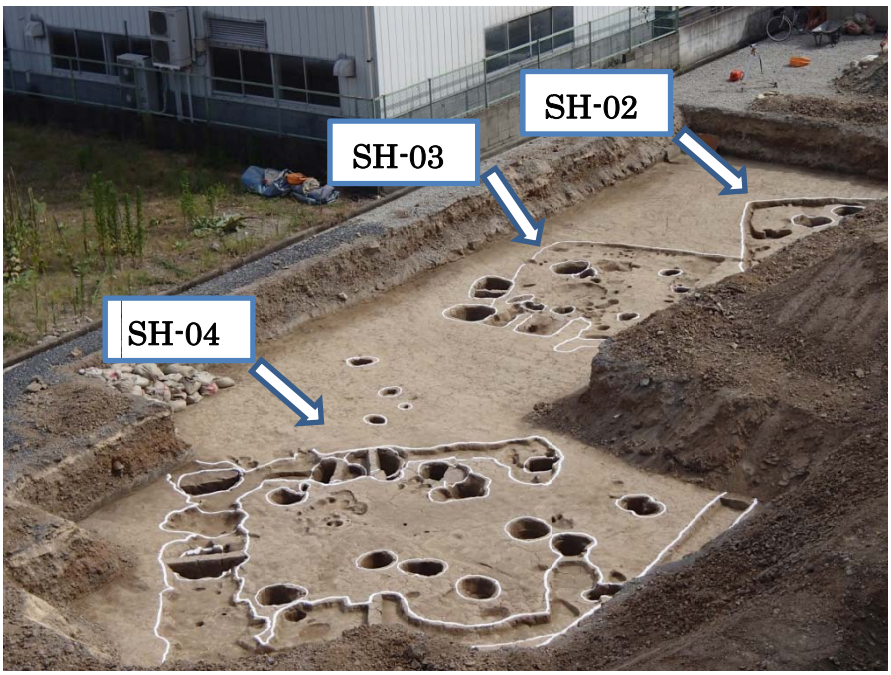
吉身北遺跡　第４０次調査

勝部一丁目において、７月１９日から駐車場造成工事に伴って、発掘調査を行いました。

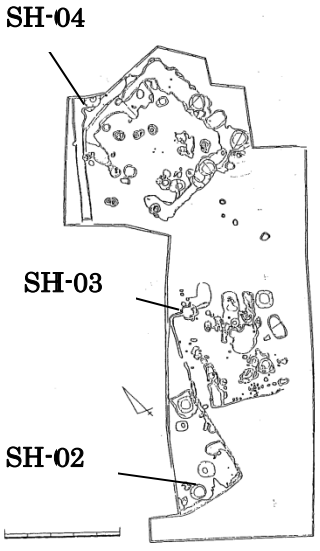
今回の調査結果では、右図にあるようにSH-０１からSH-０４までの竪穴建物が発見されました。

これらの住居の特徴としましては、非常に多くの滑石が検出されたということです。





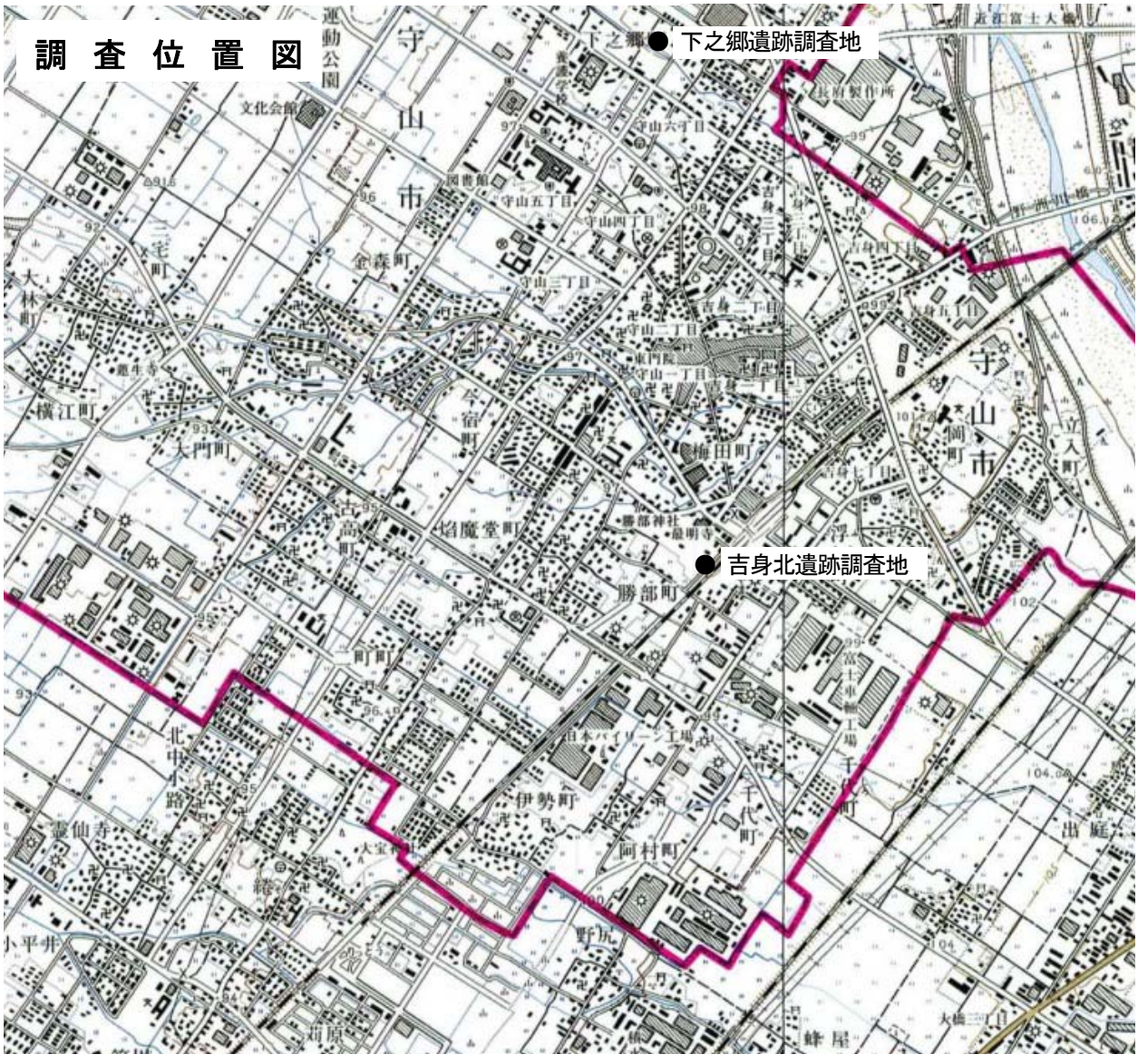
▲北西から南東を高所より撮影



吉身北遺跡（第４０次調査）
発掘調査地　遺構図

中でもSH-01とSH-04から、多く出土した滑石は、SH-04においては原石や製品までの途中過程の物が多く、加えて作業ピットのようなものも複数見つかっていることから、製作の工場のような役割を果たしていたのではないかと考えられます。またSH-01からは相対的に製品が多く、南西の周壁溝からは、21個の管玉が連なって発見されました。SH-01は他の住居に比べ、非常に規模も大きく、丁寧な周壁溝が施され、張り床もあることから、この集落の滑石製品作りに何らかの影響を及ぼす有力者の住居ではないかと考えられます。　（今村）

▲SH-01 の周壁溝から発見された管玉



埋蔵文化財センター友の会だより

友の会第回見学会を開催しました！

　9月 15 日(木) 第3回見学会として、大阪中之島の国立国際美術館で開催中の「始皇帝と大兵馬俑」と吹田市立博物館を見学しました。

　今回の参加者 41 名のほとんどか、初めて目の当たりにした兵馬俑に、「一度は見たかった」、「 迫力があった」、「兵馬俑がつくられた中国の時代背景かよくわかった」など、様々な感想を持たれたようです。

　続いての見学会先 吹田市立博物館では、学芸員の池田さんに丁寧な展示説明をしていただきました。

次回の見学会は１月、寒い季節になりますが、会員の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

国立国際美術館
「始皇帝と大兵馬俑」

吹田市立博物館　見学風景

【後 記】

　よく「〇〇の秋」と表現されますが、皆さまはどのようなものを想像されるでしょうか？

　芸術の秋、スポーツの秋など様々ありますが、同時に食欲の秋とも言います。

　野菜も夏野菜から、秋野菜へと移り変わり、昨今ではスーパーにも多くの種類が立ち並び、中には見慣れぬ外来の野菜もあります。しかしすでに食卓に定着している野菜の数々も、意外と最近になって日本に入ってきたものであるということをご紹介致します。

　例えば人参は十七世紀に、玉ねぎなどは明治期になって食べられるようになったように、歴史が浅いことに驚きます。一方、紫蘇などは歴史が古く、縄文時代の遺跡に種子が発見されており、大根の原種なども四世紀には大陸から入ってきたようです。また最近のものに思えるレタス（苣(ちさ)）は、奈良時代（八世紀）に伝来したようです。

　我々が普段何気なく口にする野菜にも、そのような歴史があるのですから、興味は尽きません。

（今村）